



夏に思う 平和なときを

理事長 荻部 一夫

コロナ禍の今夏は、なぜか夏が短かった気がします。梅雨明けが遅かったせいなのか、子どもたちの夏休みが短かったせいなのか、はたまた自分の歳のせいなのか、あつという間に秋が来た感じがします。いつもの年には必ず行われる各地のお祭りや花火大会なども軒並み中止となり、夏の風物詩があまり聞こえてこなかったから余計そう思うのかもしれない。

私の「夏」と言えば、スイカ割りやかき氷、蚊取り線香の匂い、花火、蚊帳の中の寝苦しい夜、父親が連れて行ってくれた川遊びの思い出など、どれも平和な時代だからこそ感じられた夏の風物詩の一つだと思えます。

思えば私が生きてきた六十余年は、かつてない平和な時代であったとしみじみ思います。両親の育った時代は、それは悲惨で不憫な思いを多くの人々が経験してきた夏だったに違いありません。だからこそ、子供には楽しい思い出をつくらせたいと、休みの日には家族サーブिसに励んでいた姿を思い出します。

毎年迎える原爆記念日や終戦記念日に、命の大切さと平和の尊さを必死に訴え続けてこられた被爆者や戦争体験者の方々はもとより先人の尽力に敬意を表したいと思えます。

そのお陰をもって日本の良き夏の風物詩を享受できたのだと改めて感じた夏でもありました。

しかし、最近世界は協調より分断の様相を見せ始めています。経済の覇権争いが人の命を上回ることは絶対なのに、まるでそれが正義のように核兵器をもちらつかせ、あたかも防衛という名の正義が戦争を正当化できるかのように論じられている。今の情勢に大きな危機感を覚えます。

一方では、コロナに罹患した人も、コロナで破産した人も、水害で家を消失した人も、身近な大切な人を失った人も、こうしている今も必死になって立ち直ろうと戦っています。人々の平和な日常を取り戻すことがどんなに大切かということを知っているはずなのに、世界は、協力や助け合いではなく、自国中心の奪い合いの方向に進んでいると感じてしまいます。とても残念なことです。

龍鳳はこうした道には決して進みません。向かうのは、「夢の実現」です。そのために最も大切なことは、「分断」ではなく、「共生」なのだと思えます。「共に生きる」ことは、障害者が社会参加する上で根幹になる考え方だからです。互いに違いを認め合いながら、相手を尊重する。それが一人ひとりの自由と尊厳を守ることに繋がると信じています。

最後に、今年の「こぶし祭り」と「たんぽぽ祭り」は感染防止の観点から中止することを決断いたしました。楽しみにされていた皆様にはご迷惑をおかけいたします。一日も早く安心して楽しめる平和な時間が流れますようにお祈りいたします。

10月の活動予定

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17 開所日
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

～赤い羽根共同募金助成金より購入いたしました～

このたび、赤い羽根共同募金事業(東京都募金会)の助成を受けて、運動マットを購入いたしました。おもに生活介護課の活動(ストレッチ運動)の際に、活用させていただきます。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



たんぽぽまつり中止のお知らせ

2020年11月7日(土)に開催を予定しておりました「たんぽぽまつり」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止することといたしました。何卒ご理解いただきますようお願いいたします

就B 開所日



8月29日（土）の開所日は30℃を超える暑さの中、利用者の皆さんは元気に通所されていました。今日の映画は「河童のクウと夏休み」だんだんと物語に入りこまれ、時々笑い声も聞かれる楽しい鑑賞会になりました。画像でご確認頂けると思いますが作業室内はコロナ対策の為ビニールのパーテーションで区切られています。今回は感染防止の意識を持って頂きたく、大画面を使用して手洗いダンスにも挑戦してみました。

☆ 生活介護 ☆ 開所日の様子 ☆



8月29日の開所日、生活介護では紙相撲・新聞紙を使った的当てを行いました。どちらも準備から利用者の皆さんは頑張ってくださいました。午後にレクリエーションを開始しましたが、紙相撲では相手を倒した時・的当ては上手的に当たった時にとても笑顔で喜んでくださいました。



思いや気持ちを汲み取るために

令和2年度が始まり、6カ月が過ぎました。慌ただしい毎日を過ごし、本当にあっという間の期間だったように思います。

たんぼぼの日常の様子をご紹介します。

Aさんは支援員のOKサインがないと次の行動に移ることができません。上履きを履き替えるのに10回近い確認行動があります。毎日のように通所されると玄関で立ちすくんでいました。そこで一人で次の行動に移せるように、支援員はそばにいないことなく、「手順書」を作成して示すことにしました。(ご本人の特性は口頭より視覚優位であるので文字を使った手順書を作成しました。)するとAさんは自分自身に掛け声をかけて頑張れるようになってきました。最初、私は「一人で行動するのは難しいかな・・・」と思ったのですが、確認なしで一つずつ次の行動に進むことができるようになってきたのです。私は、「すごい！できたんだ！」と感動したのですが、よくよく考えてみると、自分の中で勝手にその人はできないのだろうと判断していたことに気づきました。

言葉の表出が難しいBさんは、伝えられない思いを他の人をひっかけ、つかんで表現することがあります。ご本人の心の中を予想し、もっと人と関りを持ちたいのでは・・・、次に行くことがわかっていないのでは・・・、私のことをもっとわかってほしいのでは・・・などの仮説をたて、文字や絵カードなども活用しながら、ご本人が望まれる支援は何なのかを考え、試行錯誤しながら支援しています。

龍鳳の経営計画では「利用者への意思決定支援を大切にしたい実りあるサービスの提供」を目標に掲げています。「意思決定支援」は自分のことは自分で決める、自分の考えや意思を表出する、表出が難しい利用者の方へはその利用者の最善の利益となるよう、わかりやすい情報提供を行った上でご本人・保護者・支援者・関係機関などと一緒に考えて選択していただくことです。意思決定支援につながる場を、私たちがどれだけ利用者の方に提供できるか、利用者の方の意思をどのくらい汲み取れるかが大事になってきます。

健常者も障害者も関係なく、すべての人は、日々、様々な場面で意思決定を行い、失敗や成功経験を繰り返しながら自分の選択した人生を歩む権利があります。私たちは、出来るだけ個々の利用者さんの思考や思いを汲み取って支援をしているつもりですが、果たして本当に現状の支援が正解なのかはわかりません。「〇〇の活動がしたい」「〇〇の仕事がしたい」「〇〇にでかけたい」「つかれたから休憩したい」と話せる方とそうでない方がいます。言葉で表現できない方はもちろんのこと、言葉は出ていても心の奥底にあるものは見えません。普段からのコミュニケーションを大切に、気持ちを汲み取れるように努力していきます。

コロナの影響で、企業からの仕事依頼が減少し、密を避けるために利用者さん同士の流れ作業もできなくなり、提供する作業が限られています。就Bではご本人の強みを生かした作業の提供と生活介護では自立課題(一人で完成できる課題)をより一層充実させていきます。

サービス管理責任者 北久保 克実

～ ご寄附をいただきました ～

「練馬区障がい児者を持つ親の会」は、近年、運営委員の担い手が不足し、今後の活動の存続が厳しいとの理由で、令和2年7月20日に解散されました。それに伴い、令和2年8月19日、「練馬区障がい児者を持つ親の会」様より10万円のご寄附をいただきました。たんぼぼにて、より良い環境が整うような目的で使わせていただきます。ありがとうございました。